

Z 生活史作成の注意 2 文章作法

① 文体

一人称口語調の長所短所

- ・話者の語り口をほうふつとさせる
- ・文章に臨場感やリアリティを与えること

→悪くすると読みにくい文章に

三人称文語調はこの逆（なお、「～という」「～だそうだ」等、伝聞表現の多用は不要）

→口語調の全面採用は、労力を要するが、優れた生活史となる確率が高い

→現実的な解決策としてオススメ：三人称文語調を基本とし、要所要所で語り口を引用する

② 話者の呼称

（三人称の場合）比較的多くの方が直面したのが「話者の呼称」の問題

筆者（聞き手）からの呼称「祖父 or 祖母は～」

固有名（事情ある場合は仮名も可）「太郎は～」「花子は～」

原則的にはどちらでも良い

経験的には後者すなわち固有名の使用を推奨

→煩瑣な記述の回避／敬語使用からの自由／話者の客観視

話し手の語りを活かすのにどちらが適切か、各自、試行錯誤すべし

③ 構成

話の順序「特別な理由」のない限り「時系列順」

「時系列順」ではない場合はきちんと意義を考える

3000字程度なら必ずしも章分けする必要なし

順序だっていれば章分けがなくても読み通せる／細かく分けすぎるとかえって読みづらいことも

段落はきちんと分ける（経験的には10行越えたら改段落）

④ 内容

履歴書のような文章ではマズい

→話者の「想い」を記述する

→時代／社会の動きとの関わりに注意（話者が自覚しているとは限らないが）

生年の違いによるライフコースの違い（ex. 中学校義務教育化は1947年）

第二次大戦（1939～）と太平洋戦争（1941～）

高度成長／オイルショック／バブル

世代によっては学生運動も重要

⑤ 書き出し

「〇〇（話者）は△△年、□□に生まれた」で大過なし

聞き取り時の話者の様子から、というアプローチも

話者選定の経緯（「自分の祖父母は既に他界しているので…」等）はなくても良い

⑥ 締めくくり

「以上で祖父の生活史を終える」「以上が祖母のライフヒストリーである」という終わり方

→残念かつ失礼終わり方

「筆者の感想」も理論上可能だが成功例は少ない

（クドくなりすぎる or クサくなりすぎる）

作戦1 「現在」を描く

作戦2 「アドバイス」をもらう

→「締めくくり」は「書き出し」とともに文章の印象を大きく左右する要素です。

文献：

菊地暁編 2024 『書いてみた生活史：学生とつくる民俗学』 実生社

安田峰俊 2022 『みんなのユニバーサル文章術：今すぐ役に立つ「最強」の日本語ライティングの世界』 星海社新書